もこもこ
町産カラマツCLTを用いた児童養育相談センター

新ひだか町　土井　里治

■はじめに

「もこもこ」。これは，新ひだか町産材を用いて2025年2月に竣工した「新ひだか児童養育相談センター」の愛称です。

「もこもこ」には，日本の古語で「仲間」，ハワイ語で「混ぜる」の意味があり，新ひだか児童養育相談センターに集う子どもたちをはじめ，さまざまな方が混ざりながら仲間となって子どもたちの育ちを支える場所として，地域の皆さんから愛着を持たれる施設になってほしいという願いを込め，保護者からの提案を経て名付けられたとのことです。そんな「もこもこ」の概要，建物の特徴などについて，新ひだか町健康推進課の土井里治氏にお話を伺いました。

（文責：普及協会・菊地）

■「もこもこ」の役割

「もこもこ」は，「静内児童養育相談センター」として1989年に設置されました。その後，2006年の町名変更に伴い「新ひだか児童養育相談センター」と名称が変わり，2012年には分室を開設しました。

しかし，本室，分室ともに築30年を越えて老朽化が進むとともに，分室は隣接する河川改修工事に伴う移転が必要になりました。さらに，受け入れ児童の増加で，施設拡張の必要性も高くなりました。また，少子化が進む中であっても，発達が心配され，支援が必要な児童の数は減っていません。これは，きめ細やかな検診を通じて支援の対象となる児童を幅広く捉えるようにしてきた積み重ねによるところも関係しています。

「もこもこ」の施設整備は2021年から検討が始まり，2024年6月着工，2025年2月竣工，そして5月オープンと進んできました。

「もこもこ」では児童の発達上の課題や保護者のニーズ等に基づいて，**表1**の活動を行っています。このような事業を担うため，「もこもこ」には，保育士，児童指導員，公認心理士，作業療法士，言語聴覚士，社会福祉士が配置されています。施設整備に際しては，これら専門職員の意見を反映しています。

2022年～2024年，児童発達支援と放課後等デイサービスを合わせた在籍児童数は各年とも90名前後となっています。さらに，「もこもこ」利用者以外の児童や地域の方々が交流できる一般開放日を設けています。新施設では年間3千名（延べ）程度の利用を見込んでいます。

表1　「もこもこ」の事業内容

①児童発達支援
- 子育て，発達相談（専門的視点からのアドバイス）
- 児童の状態等に合わせた発達検査等
- 相談センター職員との活動を通した育ちの支援

②放課後等デイサービス

③訪問支援
- 幼稚園，保育所，学校への訪問による療育支援
- 特別支援学級のサポート

④一般開放事業
- 専門職員による相談対応

■「もこもこ」の特徴

「もこもこ」の概要を**表2**に示します。「もこもこ」の実現にあたっては，新エネルギー設備導入支援事業，および林業・木材産業構造改革事業による補助を受けています。後述するCLTを導入するに際しては，日高振興局林務課に尽力いただきました。

表2　「もこもこ」の概要

設計・監理		(株)岩見田・設計
施工	建築	池内建設(株)・(株)藤沢組・(株)伊藤組　特定建設工事共同企業体
	設備	(株)道南
	電気	(有)伊藤電気
構造		木造（在来工法）
防耐火		制限なし
敷地面積		3,328.42m²
延べ床面積		596.14m²
階数		1
最高高さ		9.12m
部屋		支援室（5室），面談室，スヌーズレン室，デイルーム，会議室，遊戯室

「もこもこ」の特徴は**表3**のとおりです。この中で，
①自然エネルギーを取り入れた高い省エネルギー性能
②新ひだか町産材を活用した木造建物
の2点が特筆されます。

表3　「もこもこ」の特徴

設備	①太陽光発電 発電量（見込み）；10,153kwh／年 ②地中熱発電（新ひだか町施設で初） 発電量（見込み）；5,734kwh／年 ＊①＋②の， 年間電気使用量に占める割合；36% CO_2削減量；11,749t-CO_2／年 （いずれも推計値）
省エネ性能	一次エネルギー消費量の66%削減 ZEB Readyの認証取得（新ひだか町で初）
構造	CLT耐力壁（遊戯室の壁2面）（**写真1**） 吹き抜けと大型窓からの太陽光取得による明るく開放的な空間（遊戯室）
外部	ロードヒーティングを備えた正面アプローチ 遊戯室と直結した園庭（**写真2**） 人工芝採用によるメンテナンス費用削減

設備整備に当たっては，働く職員の声，職員が聞いている利用者さんの要望を取り上げることを意識し，たとえば下記のような工夫をしています。

・採光用の窓を設けず，間接照明等で室内の環境をコントロールし，児童が落ち着ける環境を提供する部屋（スヌーズレン室）の設置
・裸足で活動する児童に適した床暖の導入（遊戯室）
・定型的な四角テーブルの代わりに，組合せの自由度が高いテーブルの設置
・車椅子対応の幅の広い廊下
・全館にwifiを完備

写真1　遊戯室
遊戯室には，床にナラフローリング，2面の耐力壁にカラマツCLT，トラスにカラマツ集成材を用いている

写真2　遊戯室と直結した園庭
遊戯室から直接出入りできる園庭の周囲を柵で囲んで児童の安全性を確保している

北海道は「ゼロカーボン北海道」の実現に向け，2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で48％の削減を目指しています。本町でも「新ひだか町再エネ導入・省エネ推進計画」を策定し，再生可能エネルギー等の活用，省エネルギーの推進に取り組んでいます。

「もこもこ」への太陽光発電設備，地中熱発電設備の導入もゼロカーボンの一環として進められました。特に地中熱発電設備は新ひだか町施設としては初めてとなるもので，その効果が実証されることで民間施設での導入につながることを期待しています。

「もこもこ」を建てるに際し，地域材を活用した木造としたのは，次の理由によります。

・町では，地域材利用推進方針に基づいて施設の木造化・木質化を推進していること
・木材のあたたかみが養育施設の空間にマッチするとともに，養育への効果を期待したこと
・地域材利用による林業，木材産業の活性化に期待したこと

■使用した木材

「もこもこ」に使用した木材を**表4**に示します。このうち，カラマツ集成材・カラマツCLTは，町内に製材工場を構える日高中部森林組合が伐採・製材した町産材を，(協)オホーツクウッドピアで加工したものです。CLTを施工する状況を見る機会がありましたが，大型クレーンで吊り下げられたCLTが遊戯室の壁として組み上がっていくのは手早いものでした。

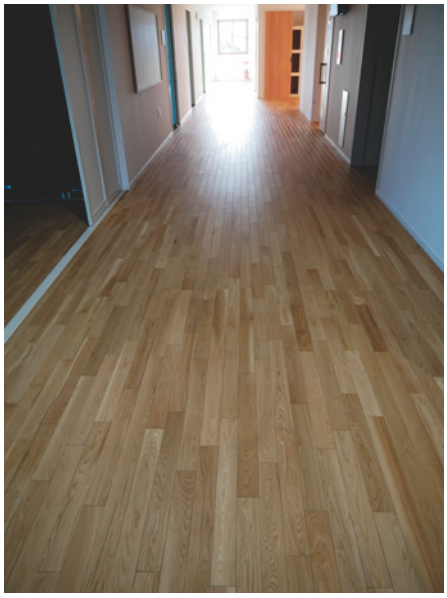

写真3　廊下のナラフローリング

■これから

町産材を活用した建物として，そして道内ではまだ棟数の少ないCLT材活用建物として，木造「もこもこ」を地域の皆さまに知っていただきたいと考えています。そのため，当面，下記のようなPRを計画しています。

・「もこもこ」内に建設資料を展示
・HOKKAIDO WOOD BUILDINGへの登録と登録証の掲示

町内では内外装に木材を用いた「無印良品コープさっぽろしずない」がHOKKAIDO WOOD BUILDINGとして登録（2023年8月）されていて，「もこもこ」が2件目となります。これらに続く木造，木質建物が実現していくことを願っています。

表4　「もこもこ」に使用した木材

部位	種類	樹種	使用量	製造者
柱･梁	集成材	カラマツ	46.7455m³　*	(協)オホーツクウッドピア
耐力壁	CLT	カラマツ	12.0528m³　*	
下地	製材		46.9332m³	相田木材(株)
下地	構造用合板		2,810.5714m²	丸玉木材(株)
床	無垢フローリング(**写真 3**)	ナラ	338m²	松原産業(株)

*:全て新ひだか町産材